

小学校国語

指導のポイント

単元で取り上げる指導事項に基づいて、単元の目標を設定し、その目標を実現するために適した言語活動を位置付け、課題解決の過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような児童の記述または発言があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動を通じた具体的な児童の姿を想定しておくことが大切です。

1 国語科における「内容のまとまりごとの評価規準」

学習指導要領の目標や内容を踏まえ、以下のように「内容のまとまりごとの評価規準」を設定します。国語科においては、基本的に「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

知識・技能

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成します。

思考・判断・表現

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成します。
評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)において、」と明記します。

POINT

「知識・技能」と「思考・判断・表現」のどちらの観点においても、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもあります。



主体的に学習に取り組む態度

下記の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習を調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点において重点とする内容(特に粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

第3学年及び第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」

単元に位置付ける言語活動: 齋藤隆介作品を読んで、登場人物の魅力を紹介する活動(C(2)イ)

評価規準の例

進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、
①粘り強さ ③他の2観点において重点とする内容
学習課題に沿って、登場人物の魅力を紹介している。
②自らの学習を調整 ④当該単元の具体的な言語活動

2 単元の評価規準の作成の手順

国語科においては、次のような流れで授業を構想し、単元の評価規準を作成していきます。まずは、本単元で取り上げる指導事項を確認することからはじめましょう。

STEP1

単元で取り上げる指導事項の確認

STEP1

年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項を確認します。

STEP2

単元の目標と言語活動の設定

STEP2

「単元の目標」の設定について

○〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力〕の目標は、基本的に、指導事項の文末を「～ができる。」として示します。

○「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても、学年の目標の「言葉がもつよさ～伝え合おうとする。」までを示します。

「言語活動」の設定について

○単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考に具体化します。

言語活動を通して指導するのが国語科の目標であり、単元を構成する上での大原則です。

STEP3

単元の評価規準の設定

STEP4

単元の指導と評価の計画の決定

STEP5

評価の実際と手立ての構想

3 単元における指導と評価の例

事例 第6学年「C 読むこと」(文学的な文章)
単元名 読書座談会を通して命について考えよう(海の命)

□単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能](2)イ
- (2) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)イ
- (3) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)エ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力,人間性等」

□単元に位置付ける言語活動

「いのち」シリーズの課題について考えをまとめ、読書座談会をする。 関連:[思考力,判断力,表現力等]C(2)イ

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	①積極的に人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って話し合おうとしている。

STEP 3

前ページの作成の仕方を参考に、単元の評価規準を作成します。

□指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準・評価方法等
1 2	○「いのち」シリーズの読書座談会をするという学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	
3 4 5	○「海の命」を読み、読書座談会の課題について話し合う。 なぜ、太一は瀬の主にもり打つことをやめたのだろう ○課題を解決するために、「太一」を中心とした人物相互の関係を人物相関図にまとめる。	[知識・技能]ワークシート ・登場人物の描写を、線や記号等で結び付けて意味付けているか確認する。 [思考・判断・表現①]ワークシート ・「太一」を中心とした相互関係を、描写を結び付けながら捉えているか確認する。
6 7 8	○「海の命」の課題について、自分の考えをまとめ、「海の命」の読書座談会を開く。 ○「海の命」の課題について、自分の考えを再度整理する。	[思考・判断・表現②]ワークシート ・「海の命」と太一に影響を与えた人物の描写とを結び付けて考えをまとめているか確認する。
9 10	○選んだ作品について、人物相関図をまとめ、課題について考える。 ○「いのち」シリーズの読書座談会を開き、「命」について考えたことをまとめる。	[主体的に学習に取り組む態度]観察 ・課題に沿って何度も読み返しなが、人物や「いのち」の意味を明らかにしようとしているか確認する。

STEP 4

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階での評価規準に基づいて評価するかを決定します。

POINT

- ここでは、評価する時間と評価方法、そして、「おおむね満足できる」状況(B)の例を示しています。
- 評価計画に当たっては、どの時間に何を評価するかを整理しましょう。必ずしも毎時間の評価を記録に残すわけではありませんので、内容や時間のまとまりで計画することが大切です。



□実際の学習評価例

【思考・判断・表現②】については、児童が「海の命」と太一に影響を与えた人物の描写とを結び付けている姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、ワークシートの記述から評価することとした。

Fさん



太一は、瀬の主と向き合いながら、この大魚を打つことが本当に正しいことなのかどうか、ものすごく迷ったのだと思う。このとき、与吉じいさが話していた「千びきにーびきていいんだ。」という言葉思い出したのかもしれない。この瀬の主も「海にいきる命」の一つであることに気付いたから、もりを打つことをやめたのだと思う。

太一に強い影響を与えた、父と与吉じいさの描写(行動や会話など)と結び付けて、「海の命」について考えている。このことから、「『海の命』と太一に影響を与えた人物の描写とを結び付けて考えをまとめている」と捉え、「おおむね満足できる」状況(B)とした。

Kさん



太一は、父のかたきである瀬の主と向き合いながら、このクエをうたなければ一人前の漁師になれないと自分に言い聞かせていたのだと思う。そのとき、ふと太一は、この瀬の主を父と思うことにしたのではないか。そうすることで、「海の命」に思えたのだ。だから、太一はもりを打つのをやめたのだと思う。

「海の命」に触れてはいるが、これまでの父や与吉じいさ、母などの描写と結び付けて考えをまとめるまでに至っていないことから、「努力を要する」状況(C)とした。そこで、再度、人物相関図を振り返るようになり、「太一がクエを打ちたくない理由」と結び付け描写を見付けるよう助言した。

STEP 5

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、具体的な児童の姿を想定します。

POINT

- 児童の「おおむね満足できる」状況(B)を想定して、あらかじめ教師が書いてみるのが大切です。そうすることで、指導と評価のポイントが明確になります。
- 「努力を要する」状況(C)となってしまう児童には、具体的な支援が必要です。どのようなつまずきが考えられるかを想定して、支援の方策を計画しておきましょう。

